

第16回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

- 1 日時 昭和52年7月6日(水) 午後2時～4時
- 2 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3 議題 (1) 宇宙開発計画に関する要望事項について
(2) " の見直しに関する審議について

4 資料

委16-1 第15回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委16-2 宇宙開発計画に関する要望事項について (その2)
委16-3 " " (その3)
委16-3/4 " の見直しに関する審議について 案

委16-1

第15回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時 昭和52年6月29日(金) 午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 宇宙開発計画に関する要望事項について(その1)
(建設省、運輸省、通商産業省)
4. 資料
委15-1 第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委15-2 宇宙開発計画に関する要望事項について(その1)
5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	網 島 巖
“ 委員	吉 識 雅 夫
“ “	八 藤 東 福
“ “	斎 藤 成 文

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長	園 山 重 道
“ 長官官房参事官	佐 伯 宗 治
通商産業省機械情報産業局次長	水野上 晃 章
	(代理：角田)
運輸省大臣官房参事官	沼 越 達 也
	(“ : 上田)
気象庁総務部長	宇津木 巖
	(“ : 関口)

海上保安庁総務部長

鈴 木 登

(“ : 佐藤)

郵政省電波監理局審議官

門 田 博

(“ : 藤)

建設省大臣官房技術参事官

細 川 弥 重

(“ : 渡辺)

運輸省航空局

玉 田 敏 夫

気象庁総務部

高 谷 悟

“

高 橋 昭

海上保安庁水路部

森 巧

郵政省電波監理局

原 田 祐 治

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 伊 藤 栄 一

“ 宇宙国際課長 三 浦 信

“ 宇宙開発課長 雨 村 博 光 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨について、
3頁の②登録条約の部分を下のように訂正することとされ
た後、確認された。

吉識：登録機関としては、各省の設置法からみてどこが可能か。

網島：設置法の改正は必要ないか。

園山：現在の科学技術庁の設置法でも読めないことはないと思
えられるが、どこを登録機関とするかは、設置法の改正を
含め、今後の関係各省庁との調整の結果による。

なお、八藤委員の指示により、議事要旨について、星野作業グループ主査に確認を求めた結果、①損害賠償条約に関する星野主査の発言中「極めて厳しい注意義務が要求され、事故があれば即過失があつたと認定されよう。」とあるのを、「極めて厳しい注意義務が要求されるので、事故があれば過失があつたと認定される可能性が極めて大きい。」に変更する。

(2) 宇宙開発計画に関する要望事項について

事務局から資料委15-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

気象衛星について

斎藤：3軸安定気象衛星はGMSシリーズとは別系統のものか。

高谷：別シリーズとして開発を進めるが、その性能が実証され安定化すれば、3軸安定シリーズへ移行したいと考えている。

網島：GMSを定常化することになれば、従来の観測網はどうなるのか。

関口：GMSの成果をみてみなければわからないが、廃止できるものは廃止する方向で考えたい。

網島：GMSの定常化については、定常運用を必要とする実用衛星全体の問題として、今後委員会で検討していきたい。

八藤：開発と利用は密接不可分の関係にあり、定常化への移行の可否を含め、委員会としてこれら両方にわたって積極的に取り組む必要があり、また、民間企業の育成や宇宙技術の技術移転等についても委員会として今後十分に検討、整理していく必要がある。

航行衛星について

網島：日本が打ち上げる衛星のミッションは、エアロサット衛星と同じだということだが、それでは日本独自の実験はできないのではないか。

玉田：衛星機能は同じだが、太平洋という立地条件の実情にあつた実験をしたい。

網島：日本独自でやる実験ではなく、エアロサット計画に参加するためなのか。又、日本で2個打ち上げることは考えていないのか。

玉田：今までは、エアロサットが太平洋上に移動されてから日本で打ち上げる方針だったが、日本で先に打ち上げエアロサットの1個を早く移動してもらい呼び水にしたいと考えている。又、日本で2個の衛星を打ち上げることは考えていない。

網島：海事衛星については、マリサットやインマルサットのような海事通信衛星ではなく、航行保安目的か。

沼越：まだ具体的に詰まつていない。将来こういうことをやりた(代理：上田)
いということである。

測地衛星について

八藤：測地衛星は定常化する考えはあるのか。

沼越：定常的にはならないと考えている。
(代理：上田)

通産省の要望について

八藤：宇宙産業の育成については通産省ではどこが当たるのか。
また、具体的にどのようなことを考えているのか。

永野上：機械情報産業局が中心となる。具体的なものはまだなく
(代理：角田)

委員会でもその方向で考えてほしいということである。

八藤：あらゆる先端産業の研究陣や経営陣に、宇宙利用に関心を
持せていくよう通産省で指導してほしい。

網島：通産省が宇宙産業の育成に乗り出すのは、良いことである。

今後、このような考え方で積極的に進めてもらいたい。